

庵地保 近代初期に普通教育説いた「民間教育論」を著した。

いおじたもつ

ペリー来航・1853 = 沼津藩主水野家の家中で儒臣の次男に生まれる。

桜田門外変・1860 = 7歳 :

生麦事件・1862 = 9歳 :

長男夭折のため家督を継ぐ。

明治維新・1868 = 15歳 : 明治維新に際して一家を挙げて上京。東京にあった藩校{明親館}の洋学局で英学を学んだらしい。

初の日刊新聞1870 = 17歳 : 開設された大学南校に入学するが、学資の点で中退したらしく、海軍省の艦内教授役介となる。

廃藩置県・1871 = 18歳 :

明治6年政変 1873 = 20歳 : この年、学制実施。

西南戦争・1877 = 24歳 : 東京府に採用され、学務課に配属となり、

琉球処分・1879 = 26歳 : 貧民を切捨てる教育令が施行されたのに対し、教育は民衆の権利であるとの議論が活発になされ、
..... 1880 = 27歳 : 福沢諭吉からの返書があり、交流していたらしい。*教育令強化改正となるなか、「民間教育論」を出版し、
明治14年政変 1881 = 28歳 : 東京府学員会会員となる。再版されたらしく、好評。

新体詩抄・1882 = 29歳 : 創刊されてまもない*{東京教育学会雑誌}に「科学的ノ思想ヲ説キ併セテ其進歩ヲ論ス」発表。

岩倉具視没・1883 = 30歳 : 東京府教育談会、大日本教育会が発足。中心メンバーとなり、

秩父事件・1884 = 31歳 : 東京府教育談会副会長。以後2年、大日本教育会幹事。以後、これらの団体や学校などで演説、講演。

内閣発足・1885 = 32歳 : 学事改正取調委員。*「通俗教育論」を出版、原亮三郎が{教育報知}を創刊し、その広告文書く。

帝国大学始・1886 = 33歳 : 翌年にかけて大日本教育会商議委員。東京府学務課長に昇格。{教育報知}に論説「小学校ノ経済」。

国民之友始・1887 = 34歳 : 東京府議事課を経て、文部省普通学務局主席属。大日本教育会で、有志15名と「書き方改良会の趣旨並びに規則」提唱。*{教育報知}{国民之教育}{教育雑誌}に貧困児童はじめ普通教育について次々と論説を発表。
初の対等条約 1888 = 35歳 : *秋田県専常師範学校校長となり、県学務課長兼務秋田市教育会会長。秋田県教育会を設立し、副会長。

帝国憲法発布 1889 = 36歳 : *{教育報知}に「教師の位置を安全ならしむる法」発表。

大津事件・1891 = 38歳 : 師範学校で寄宿舎新営開成式への学生サボタージュ問題で47名の退学処分事件起き、

大本教・1892 = 39歳 : 長崎県専常師範学校校長転任を命じられるが、依願退職し、金港堂書籍株式会社に就職。加藤駒二を編輯人として{国之教育}を発行し、社説「国の教育」「40年来日本の進歩」連載するも、
日清戦争始・1894 = 41歳 : *{国之教育}に書いた社説「現今の教育は開国進取の国是と矛盾」で{教育報知}と論争、金港堂書籍が経営方針転換もあって、{国之教育}は廃刊となってしまう。

白馬会・1896 = 43歳 : 友人の誘いで、住友家に入社、日本製鋼株式会社の整理監督を命じられた後、

八幡製鉄始・1897 = 44歳 : 開設された住友伸銅場(住友電工)場長に。自ら学習し率先して製作指導、通信省への完納実現させ、以後しばらく、住友の独占的製品となる。(場長を改め)支配人となり、視察と販路拡張のため、清国へ出張。

子規句歌革新 1898 = 45歳 :

日露戦争終・1905 = 52歳 :

韓国反日暴動 1907 = 54歳 :

韓国併合・1910 = 57歳 : 退職し、「商人道」出版。

明治天皇没・1912 = 59歳 :

その後、日本エナメル設立・東京瓦斯電工設立に関係し、日本原毛取締役となり、

民本主義・1916 = 63歳 :

原敬首相暗殺 1921 = 68歳 :

治安維持法・1925 = 72歳 :

旧藩主水野家相談役として晩年を送り、

海軍軍縮条約 1930 = 77歳 : 東京都小石川で、没した。

岩手大学武田晃二「庵地保の年譜と生涯」、